

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3771500406		
法人名	ハート・ケア・シオザキ有限公司		
事業所名	グループホーム袖村		
所在地	香川県丸亀市飯山町西坂元字袖村928-1 (電話) 0877-56-8522		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年10月16日	評価決定日	平成19年11月28日

【情報提供票より】(19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 11月 15日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 5人、非常勤 3人、常勤換算 6.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	約10,000円+実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	400円	昼食 550円
	夕食	550円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	0名	要介護2	3名
要介護3	2名	要介護4	0名
要介護5	4名	要支援2	0名
年齢	平均 87歳	最低 78歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮井内科医院、三崎歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、郊外の田園住宅地の一角にあり、近隣の方や子どもたちの姿が見え、声が聞こえる平屋建ての一軒の民家を思わせる建物である。併設施設を持たない単独の事業所であり、「利用者と職員は家族として苦楽を共に暮らす」を理念に運営されており、自由に入出りできる玄関を入った瞬間から、静かで落ち着いた家庭的な雰囲気が伝わってくる。職員のほとんどが管理者の家族であるため、職員の異動もなく、重度化・終末期においても協力医療機関との連携のうえ、利用者・家族との信頼関係の中で支援できている。管理者のグループホームに対する情熱は熱く、10年後の姿を描きながら運営していく努力をしないとけないという思いがある。地域に密着したグループホームとして、更なる発展に期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回までの改善項目については、ケアサービス・運営体制について、いくつか課題が示されていたが、今までの取り組みを振り返り、関係書類の検討、職員をリーダー研修に派遣するなど、改善、充実に向け、取り組んでいることがうかがえる。解決できるところから、順次改善されつつある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については管理者が作成しており、家族運営であることから管理者一任の感がある。職員が一緒になって、確認・協議するなどの作業を通じ、公的な役割を持つ事業所としての取り組みの検討が必要と思われる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームからの事業報告、ターミナルの迎え方を議題にするなど、ホームの支援方針や新聞記事等の情報が議題としているが、外部評価の報告や活用にまでは至っていない。今後、さらに、運営推進会議を通じて、認知症に対する理解が地域に普及するよう、会議のもち方や会議録の工夫などに期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居時からホームの理念を常に説明し、面会時には、家族に積極的に声かけし、日常生活記録等を通じて、気がかりなことや家族等からの意見に対応しており、家族との信頼関係は形成されていると思われる。現在、家族に情報提供するための記録の検討に取りかかっており、その活用・効果に期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会には加入していないが、災害時には近隣の協力を得られるような関係が作られている。地域の一員としての役割や、利用者が地域の一員として、地元の人々との交流が広がるような生活支援の検討が望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と職員は家族として暮らし、苦楽を共にすることを理念として運営している。しかし、地域密着型としての役割を果たすための理念の必要性は感じているが、検討ができていない。	○	この機会に、地域密着型サービスの「地域の中でその人らしく」支援していくという役割について検討し、具体的な理念の構築に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の食事の準備中などの日常業務の中で、常に確認しあいながら、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子どもや近隣の人がよく立ち寄ってくれたり、野菜を届けてくれる等の交流はあるが、受け身の関わりである。ホームや利用者が、地域の行事に参加したりすることはできていない。	○	地区の祭りや行事に参加させていただく等、利用者の生活の幅が拡大できるような支援を、今後検討して欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解しており、今年度は、職員育成と関係書類の様式等の見直しを図ることとしている。しかし、自己評価については、管理者が作成し、管理者一任の感がある。	○	家族運営の利点を活かしながら、組織として職員一人ひとりが自己評価に取り組むことが必要と思われる。管理者が取り組もうとしている改善計画を、職員間で共有し、具体的な実践を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用者やサービスの実際や支援の方針を報告したり、新聞記事等の情報提供などが議題となっているが、評価等の取り組みについての報告はしていない。また、会議も双方向の会議に至っていない。	○	認知症に対する理解と協力を得るための貴重な時間があるので、自己評価、外部評価の報告も含めて、参加者からご意見をいただけるような会議運営や、サービス向上に活かすことの検討に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>現時点では、特別な課題がないので、ホームからの積極的な関わりは持っていない。</p>	○	<p>グループホームの役割を啓発していくためにも、積極的な働きかけに期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶり、健康状態は、面会時に、口頭で情報提供している。家族への情報提供を視野においた、分かりやすい記録の検討に取りかかっている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居に際して、公的な相談窓口を口頭、書類で説明している。日常的には、面会時に家族に積極的に声かけし、気がかりなことやご意見をいただくようにしている。また、外部評価の結果については、玄関掲示板に公開している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>家族を主とした運営のため、異動はなく、利用者・家族とも馴染みの関係が形成されている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人的経費等により、外部研修には参加できていないが、職員の育成を今年度の最大課題としており、計画的研修に取り組みつつある。今後、ホーム内研修も含めて、研修計画が必要と思われる。</p>	○	<p>今年度、リーダー研修への派遣と職員の資格取得計画があるので、内部研修として、他の職員に伝達する仕組みを整え、実践されることを期待したい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者として、近隣のグループホームの相談に応じたり、相談したりの関係ができており、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後、特に1か月間は、馴染み形成の重要な時期として、関係が深められるよう、利用者の思い・希望に添った対応に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を家族のように、そして、人生の先輩の一人として尊重し、関わる中で共感しつつ、共に今を幸せと感じることのできる関係にある。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、これまでの生活歴について、本人や家族から情報を把握し、利用者の思いや意向に沿うよう支援している。また、家族の面会時には、希望や意向を聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間の情報交換もよくできており、常に、利用者の立場で本人や家族と話し合い、意見や要望を把握し、計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと状態変化等の必要に応じて、本人や家族等と話し合い、計画の変更を行っている。支援の評価も実施し、次の計画に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的なかかりつけの往診、受診の付き添いや外出支援など、柔軟な対応ができています。また、入院時にも早期退院に向け、医療機関との連絡調整に努め、支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に当たって、基本的には、本人及び家族等の希望による、かかりつけ医の医療を受けられるよう説明している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居当初から機会あるごとに、本人・家族の希望に沿うことを説明し、特に、終末期の過ごし方については、家族に確認しながら、その気持ちを受け入れた対応ができています。協力医療機関との連携も密に行い、利用者や家族との時間を大切に考え、家族のホームでの宿泊等の支援をしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りを大切に、礼儀正しく、一人ひとりに応じた対応に心がけている。また、記録をはじめ、個人情報の保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活プログラムはあるが、一人ひとりのその日の体調や思いを配慮しながら、柔軟な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に応じた声かけや介助しながら、職員も一緒に談笑し、食事をしている。また、片付けは、利用者の状態を見ながら一緒に行っている。誕生日は、その利用者の希望によるメニューにする等、楽しいものになっており、食事は、利用者にとって最大の健康バロメーターとして支援に努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日の基本的な流れの中で、入浴を行っているが、利用者は入浴を楽しみにしている。また、排泄後は、シャワーにより、快適性と清潔保持の支援ができています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理や料理に使う野菜の下ごしらえ、洗濯たたみ等の楽しみを持って、役割を果たしていただけるよう支援している。また、歌を歌ったり、ボール遊びなど、好みに合わせた気晴らしもできている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望する利用者には、日常的な散歩の支援に心がけている。時には、庭でお花を見ながら、お茶を飲んだり、外食することもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉も玄関も自由に出入りできるように、開錠されている。一人で外出しても、可能な限り見守り、利用者が納得いくまで付き合うよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、防火訓練を実施している。近隣の協力を得られる準備はできているが、夜間は職員一人であり、特に、火災発生時の不安がある。避難訓練はできていない。	○	避難経路の確認、利用者の誘導・搬送手順等の作成と、それに基づく継続的な研修により、職員間の共有が必要と思われる。また、運営推進会議の協力を得るなど、定期的にも実施されるよう今後期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理の形態・水分や食事の摂取量に配慮し、一人ひとりの状態に応じた支援ができています。記録はできているが、個人記録の内容等について、現在考慮中である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室、共有空間はシンプルであるが、テーブルや室内の花などは季節感を漂わせており、居心地よい空間となっている。夏の遮光にはすだれを利用したり、窓や戸を開放して、自然な光や風を感じながら、生活できている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れたタンスや鏡台、家族の写真等を持ち込み、馴染みのある生活が継続され、シンプルな中にも、その人らしく過ごせるように支援している。		